でたあ こわい！

おばけのうた

山中 恒 作　　赤坂三好 絵

おばけのうた

1974年9月初版1刷：1981年6月初版9刷
1983年12月改訂1刷

著　者　山中　恒
画　家　赤坂三好
発行者　今村　廣
発行所　株式会社　偕成社
東京都新宿区市ヶ谷砂土原町3の5
電話　編　集　(03)260-3229(代)
　　その他　(03)260-3221(代)
振替　東　京　5-1352番

本文印刷　新興印刷製本株式会社
多色印刷　小宮山印刷株式会社
製　　本　文勇堂製本工業株式会社
©H. YAMANAKA, M. AKASAKA, 1983
NDC913　158p　22cm
◇落丁本・乱丁本はおとりかえいたします
Published by KAISEI-SHA, printed in Japan.
ISBN4—03—517050—X

おばけのうた

でたあ こわい！

山中 恒・作

もしも、もしもおばけがいるとして、その、おばけがなにかをたのんだとして、それが、めんどうくさい、しゅくだいみたいなものだとして、たのまれたのが、あなただとしたら、そんなものは、学校のしゅくだいみたいに、やらないでなげだしてしまうほうが、いいのか、やってやったほうが、いいのか、どっちだろう？

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

もくじ

おばけが学校へやってくる　8
おばけはとってもしつこい　19
おばけはかえり道をしらない　30
おばけがおばけの話をきく　41
おばけがフルートをならう　51
おばけは学校の宿題がすき　62
おばけのママは姫ボッコか　72
おばけのフルートとふえの音　82

おばけのよびかたをおしえて　94
おばけのへやへ姫ボッコが　105
おばけがうっかり朝ねぼう　116
おばけが学校でやったこと　127
おばけがふくおばけのうた　138

筆者紹介

著者　山中恒（やまなか ひさし）

1931年北海道小樽市に生まれる。小学中級向け作品として「山中恒みんなの童話」（『おとうさん×先生＝タヌキ』『あばれんまとおひなさま』など全八巻），中高学年向きに「山中恒児童よみもの選集」（全十五巻）などがある。

住所　神奈川県藤沢市鵠沼松ヶ岡
2－11－17

画家　赤坂三好（あかさか みよし）

1937年東京に生まれる。1973年プラチスラバ世界絵本原画展で金牌賞受賞。同年，小学館絵画賞受賞。版画および，絵本・児童書・装幀などの分野で幅広く活躍。作品に『かまくら』『十二さま』『鬼おどり』など多数。

住所　東京都練馬区豊玉中 2-10

おばけのうた

山中 恒・作

おばけが学校へやってくる

〈おばけ〉は、広畑市立東第二小学校四年一組の女の子です。授業のある日は、まい朝、ランドセルをしょって、ふつうの女の子のきる服をきて、せっせと学校へやってきます。

ときどき宿題をわすれたり、給食のスープをひっくりかえしたり、ろうかをてっぽうだまのようにすっとんでいって、先生をはねとばしてしかられたりします。また、ときには六年生の男の子とつかみあいの大げんかをします。

もちろん、ほんもののおばけがそんなことをするわけがありません。〈おばけ〉というのはあだ名で、ほんとうの名まえは、土田アツ子といいました。

アツ子に〈おばけ〉だなんて、へんてこな名まえをつけたのは、同級生ではありません。東二小のバンチョウといわれていた六年生の立野健治で、一学期がはじまって、ま

もなくのことでした。というのは、そのまえはアッ子はこの学校にはいなかったのです。

アッ子がこの学校へうつってきて、はじめて授業をうけるという日の朝、ママはアッ子にいいました。

「ものごとなんでも、はじめがかんじんなのよ。みんながあなたのことを転校生だとおもって、じろじろみても、はずかしがって、うじうじしたり、べそをかいたりしないことよ。げんきよくやってくるのよ。いいたいことはきちんといって、だれかにいじわるされても、しくしくやったりしないのよ。はじめにべそをかいたりすると、あの子はナキムシだということにされてしまうのよ。いいわね。」

「はい。」

アッ子はげんきよくへんじをして家をでました。アッ子はママのことが大すきでした。ですから、ママのいうことなら、みんなきくつもりでした。ママは門のところに

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

たって、ずっとみおくってくれました。門からはずうっとほそいくだり坂で、バス道路につきあたるまで、百五十メートルほどありました。アッ子がバス道路へでて、ふりむいてみると、ママはまだ門のところにいて、手をふってくれました。

学校へついたアッ子は、昇降口で上ぐつにはきかえ、教室へはいろうとしました。そのとき、どどどっと階段をかけおりてきた男の子が、どーんとアッ子にぶつかったのです。あいてはからだの大きな上級生でした。アッ子はたまらず一回転しました。その上級生はアッ子をちらりとみて、なにもいわずにそのまま、ろうかをはしっていってしまいました。

「ひどいことをするわねえ。あれ、六年生のバンチョウで、立野健治っていう子よ。」

同級生の女の子が、アッ子に手をかしてくれて、そういいました。

「そう、立野健治っていうのね、あいつ。」

アッ子はおもわず、そういいました。アッ子に手をかしてくれた同級生の女の子は、びっくりしたように目をまるくしました。でも、アッ子はそのことにきがつきませんで

した。アッ子はかんかんになって、目がくらむほどおこっていたのです。

アッ子はやすみ時間になるたびに、教室からとびだして、六年生の教室をさがしてあるきました。三時間めのやすみ時間のとき、アッ子は、立野健治が六年三組にいることをつきとめました。

給食のすんだあとで、アッ子はさっそく、六年三組の教室のろうかへいきました。給食のおわった生徒たちが、つぎつぎに教室をでてきましたが、健治だけはなかなかあらわれません。みんなが教室をでて、あとに健治だけがのこりました。その健治がさいごにゆうゆうと教室からでてきました。

アッ子はその健治のまえへ、たちふさがりました。

――けさは、ずいぶんひどいことをしてくれたわね。――

アッ子はそういうつもりだったのですが、あんまりおこっていたので、ことばがでませんでした。健治はアッ子をみて、へんな顔をすると、左へよけました。アッ子もまけずに左へよりました。

じつをいうと、健治はアッ子のことなど、とうにわすれていたので、わけがわからなかったのです。

その健治がさらに右へよけました。アッ子も右へよりました。つまり、とおせんぼしたのです。

「なんだってんだよう！」

健治は顔つきをかえると、すごみをきかせてどなりました。

――あんな、ひどいことしたくせに、とぼけてる。――

アッ子はおもわず歯をむきだして、健治にとびかかっていきました。けれども、アッ子はそのまま、いきおいあまって、ろうかのかべにどんとつきあたり、しりもちをつきました。健治がすばやくとびのいたからです。

アッ子は大いそぎでたちあがると、もういちど健治をにらみつけました。

「ちょ、ちょっとまて！　お、おれが、な、なにしたっていう……。」

健治が片手をまえにつきだして、いいわけをしましたが、アッ子はさいごまできかず

に、もういちど健治にとびかかりました。けれども、こんどもまたよけられてしまいました。

――くやしいっ！　かすりもしないなんて！――

アッ子はネコのようなすばしっこさで、はねおきると、まえとおなじいきおいで、突進しました。とおもったら、アッ子の右の足首がビシッとなり、アッ子は空中をおよぐようなかっこうで、あたまからろうかへついらくしました。健治に足っぱらいをかけられたのです。アッ子はいっしゅん、目がくらみました。ひたいがわれたかとおもいました。でも、かっかときていたせいか、いたみなどかんじませんでした。むちゅうでとびおきると、健治のほうをきっと、にらみました。健治があともみずに、階段をかけおりていくところでした。

――まってろよ！――

アッ子はすぐさま健治のあとをおいかけました。階段をおりた健治は昇降口から運動場へでると、そのまますな場へいき、たかいほうの鉄棒にぶらさがりました。ぶらさが

りながら、うかない顔つきで首をひねりました。

――いまだ！――

アッ子はすな場のすなをけたてて、健治のほうへ突進しました。

「あっ！」

まさか、すぐにアッ子がおいかけてくるとはおもわなかったのでしょう。健治はおどろいて、小さくさけぶと鉄棒から手をはなしました。その健治にアッ子は、もうれつな頭づきをくわせたのです。

「ゲッ！」

健治はへんな声をだすと、腹をかかえ

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com